

## ボツワナ共和国月報(2024年2月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- 2024年度財政演説-歳入・歳出ともに大幅増-
- BDPによるアジア系企業への選挙資金出資協力の働きかけ
- 最高裁判所、カーマ前大統領の請求を棄却
- 独立選挙管理委員会(IEC)、ジンバブエ訪問についての声明を発表
- 独立選挙管理委員会(IEC)による投票人登録の追加実施
- 特別選出国会議員の追加指名及び閣僚等人事

#### 【外政】

- ジンバブエ特使団、マシシ大統領を訪問
- ボツワナ、SADCモザンビークミッション(SAMIM)及びSADCコンゴ民主共和国ミッション(SAMIDRC)に拠出

#### 【SADC関連】

- SADC特別会合
- 2024年第1回金融政策会合-政策金利は2.4%で据置き-
- ダイヤモンド市況-デビアス社幹部による見通し-
- ルカラ社、HBアントワープ社とダイヤモンド販売契約を締結
- BIUST、ボツワナ初の電波望遠鏡設置にかかるMOUを締結
- 1月インフレ率は3.9パーセント-前月比で0.4ポイント上昇-
- 12月国際商品貿易統計
- 公的債務残高(2023年度第3四半期現在)

#### 【当館関連イベント】

- 令和6年天皇誕生日祝賀レセプションの開催

#### 【内政】

- 2024年度財政演説-歳入・歳出ともに大幅増-

6日、セラメ財務大臣は、国民議会にて2024年度財政演説を行った。同年度の歳入見込額は935.8億プラ(前年度816.7億プラ)、同じく歳出見込額は1,022.8億プラ(同887.9億プラ)と前年度比で大幅に増大した。セラメ大臣は、高所得国への仲間入りと変革を掲げ、インフラ、民生、農業、ビジネス環境・バリューチェーン、研究開発・イノベーション・DX、教育・人的資源開発、GX及び観光の9分野を優先分野とし、そのための開発予算は前年度承認予算より41.7%増の297.7億プラを計上するとした。他方、同大臣は今後の財政規律、マクロ経済の見通しについて、国際的なダイヤモンド市況とG7対露ダイヤモンド制裁に伴うベルギーでのダイヤモンド原産地認証実施の計画が多大なリスクであると指摘した。

#### ○BDPによるアジア系企業への選挙資金出資協力の働きかけ

11日、マシシ大統領とダダBDP財務責任者は、インド系及び中国系の実業家に対し、BDPへの選挙資金援助を募るとともに、カーマ前大統領を通じ野党への資金協力を行うとみられる実業家に注意を促した。脅迫じみた雰囲気、複数の実業家が不満を抱いたとみられる。

#### ○最高裁判所、カーマ前大統領の請求を棄却

12日、最高裁判所は武器弾薬の不法所持の罪で起訴されていたカーマ前大統領による「告発は過度に政治的であり、悪意ある動機によるものである」とする主張を棄却した。本判決により、カーマ前大統領は「司法からの逃亡者」となった。これに対しカーマ前大統領は、ボツワナへの帰国を阻止するために司法手続きを利用した政府を非難し、10月に予定されている国政選挙までには帰国する意向であると述べた。

#### ○独立選挙管理委員会(IEC)、ジンバブエ訪問についての声明を発表

14日、独立選挙管理委員会(IEC)は、「IECがジンバブエの不正選挙を学ぶために、ジンバブエを訪問した」とする一部メディアによる報道に対し、声明を発表した。IECは、ジンバブエ選挙管理委員会(ZEC)は地域ネットワークである南部アフリカ選挙管理委員会フォーラム(EFC-SADC)のメンバーであることに触れ、12日、2人のIEC職員がジンバブエを訪問し、ZECの選挙監視員の認定カード作成機器を視察したことを明らかにした。IECは2024年の選挙に向けた準備を強化するため、より効率的なシステムを導入している国から知見を得ているとし、2023年にはケニア、マラウイ、ナミビア、南アフリカ、インドを訪問し、手動システムからのデジタル移行に向けて、電子有権者登録の視察等を行ったと述べた。

#### ○独立選挙管理委員会(IEC)による投票人登録の追加実施

20日、独立選挙管理委員会(IEC)は、3日に投票人登録が完了したことを受け、26日から3月15日までを追加登録期間に定めた。IECは、既に734,424名の登録が完了しているとし、有権者数約150万人という目標に向け登録の加速を目指しているが、追加登録は、平日の勤務時間内にIECの各事務所にて限定的に行われるため、一部の野党は市民の権利を奪う可能性があるとして主張している。専門家は、政党の内部プロセス(予備選挙)が遅々として進まないことが、登録率の低さにつながっている可能性を指摘している。

#### ○特別選出国会議員の追加指名及び閣僚等人事

21日、マシシ大統領は臨時国会を招集し、ホファモディモ氏を新たな特別選出国会議員に選出した。また、26日、マシシ大統領は、ホファモディモ氏を大統領府担当副大臣

に、前大統領府担当副大臣のムティムクル氏を環境・観光大臣に任命した。これらは、1月30日に発表されたケレン前環境・観光大臣の駐ナイジェリアボツワナ高等弁務官任命により、同大臣ポストと特別選出国會議員の議席に空席が生じたことに対応するもの。

#### 【外政】

##### ○ジンバブエ特使団、マシシ大統領を訪問

1月29日、ジンバブエの特使団がマシシ大統領を訪問した。本訪問を通し、マシシ大統領は、米国とEUが20年以上にわたってジンバブエに課してきた制裁の撤廃への支持を改めて表明した。ボツワナは、制裁は不当であるというSADCと同じ立場を維持し、米国とEUに対し、ジンバブエとの相違を解決するために外交的手段を採用するよう求めた。また、5日～9日まで、ボツワナとジンバブエはボツワナ北部のマウンにて二国間国家委員会を開催し、両国間の関係改善を図った。

##### ○ボツワナ、SADCモザンビークミッション(SAMIM)及びSADCコンゴ民主共和国ミッション(SAMIDRC)に拠出

クワペ外務大臣は、ボツワナが2022年から2024年にかけて、モザンビークのSADCミッション(SAMIM)のために500万米ドル以上を拠出したことを明らかにした。同大臣はさらに、2023年12月に発足したSADCコンゴ民主共和国ミッション(SAMIDRC)に対し、2023/2024年、2024/2025年の会計年度において、ボツワナは800万米ドル以上を支払う予定であると述べた。また、SADC事務局に関するボツワナとSADCの間のリース契約についても言及した。

#### 【SADC関連】

##### ○SADC特別会合

2日、SADCは域内のコレラ情勢に焦点を当てた首脳特別会合を開催した。本会合では、地域内の多部門にわたるコレラ対応計画の実施、国境を越えた発生リスク評価に関する協力の強化、公衆衛生サベイランスの改善、国境を越えた予防接種キャンペーンの共同実施と同期化、さらに緊急対応への投資拡大について合意した。

#### 【経済】

##### ○2024年第1回金融政策会合-政策金利は2.4%で据置き-

22日、ボツワナ中銀の金融政策委員会(MPC)は、金融政策金利(MoPR)を2.4%に維持した。同銀は、国内経済は短期的には過熱しておらず、需要主導型のインフレ圧力は発生しないとし、中期的にもインフレ率も同銀の目標範囲内(3%から6%)に留まり、2024年には平均4%、2025年には平均5%になると予想している。

#### ○ダイヤモンド市況-デビアス社幹部による見通し-

ロウレイ・デビアス・グループ副社長は、世界のダイヤモンド原石需要は、2021年と2022年の反動により、2023年は大幅に減少したと述べ、その要因として、コロナ過後の中国の景気回復の遅れ、米国のインフレと金利の上昇による消費支出への影響、人工ダイヤモンドとの競争を挙げた。同氏によると、2023年の同社の収益は、前年の66億ドルから43億米ドルへ減少、特にダイヤモンド原石による収益は、前年の60億米ドルから36億米ドルへ減少した。他方、同氏は、2024年には在庫調整が進み、2025年までにはダイヤモンド原石需要は徐々に回復してくるものと見込んでいる。なお、同氏は、G7によるロシア産ダイヤモンド輸入禁止措置は、デビアス産ダイヤモンドの需要圧力になる可能性を指摘している。

#### ○ルカラ社、HBアントワープ社とダイヤモンド販売契約を締結

ルカラ・ダイヤモンド社は、ベルギーHBアントワープ社とダイヤモンド販売に関する新たな契約(10年間)を締結した。契約内容は、ボツワナ国内で同社が保有するカロウエ鉱山から採掘された、10.8カラットを超える「特別な」ダイヤモンドを対象とするものである。両社は、昨年(2023年)末、HBアントワープ社側の重大な財務上の約束違反を理由に、原石の販売契約が解除されていた。

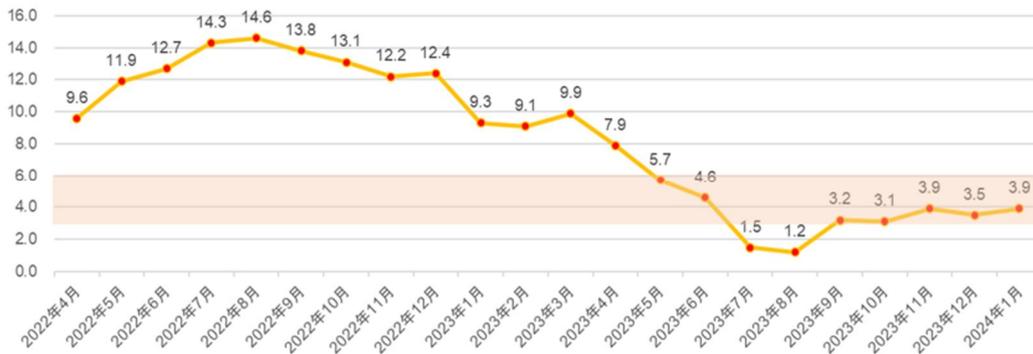
#### ○BIUST、ボツワナ初の電波望遠鏡設置にかかるMOUを締結

26日、ボツワナ国際科学技術大学(BIUST)は、南アフリカ電波天文台(SARAO)、ドイツのマックス・プランク天体物理学研究所との間で覚書を締結し、ボツワナ初の電波望遠鏡が設置される見込みとなった。ハボローネ市内で行われた署名式にて、プソエツィル通信・知識・技術省次官は、当国の電波天文学の発展にとって極めて重要な一歩であり、宇宙科学産業を通じた経済発展及び経済多様化ができる旨述べた。BIUSTは宇宙プログラムを育成しており、マックス・プランク研究所との協力は、長期的なハイテク関連産業の雇用創出や国際競争力を高めることができると期待される。

#### ○1月インフレ率は3.9パーセント-前月比で0.4ポイント上昇-

12月の年間インフレ率(前年同月比)は3.9%となり、前月の3.5%から0.4ポイント上昇した。分野別寄与度は、食品・非アルコール飲料(0.9%)、運輸(0.9%)、雑貨・サービス(0.8%)であった。

(図：近年のインフレ率の推移) ←

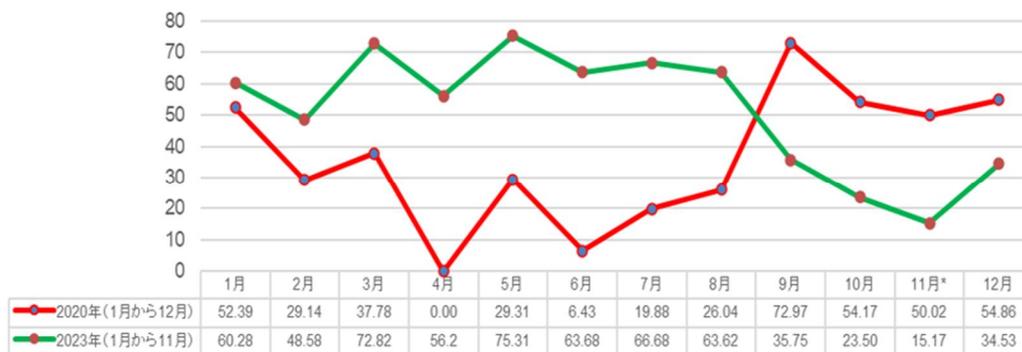


注:          ボツワナ銀行中長期インフレ目標 (3%から6%) ←

## ○ 12月国際商品貿易統計

12月、輸入総額は64.215億プラとなり、前月の96.475億プラ(改定値)から33.4%減少した。他方、輸出総額は、前月の32.175億プラ(改定値)から43.7%と大幅に増加し46.233億プラとなった。前月比でダイヤモンドの輸出額が大幅に増大したものの、貿易収支は17.982億プラの赤字となり、9月以降、4ヵ月連続の貿易赤字となった。

図：月別ダイヤモンド輸出額 (2020年及び2023年比較)



\*2023年12月は速報値

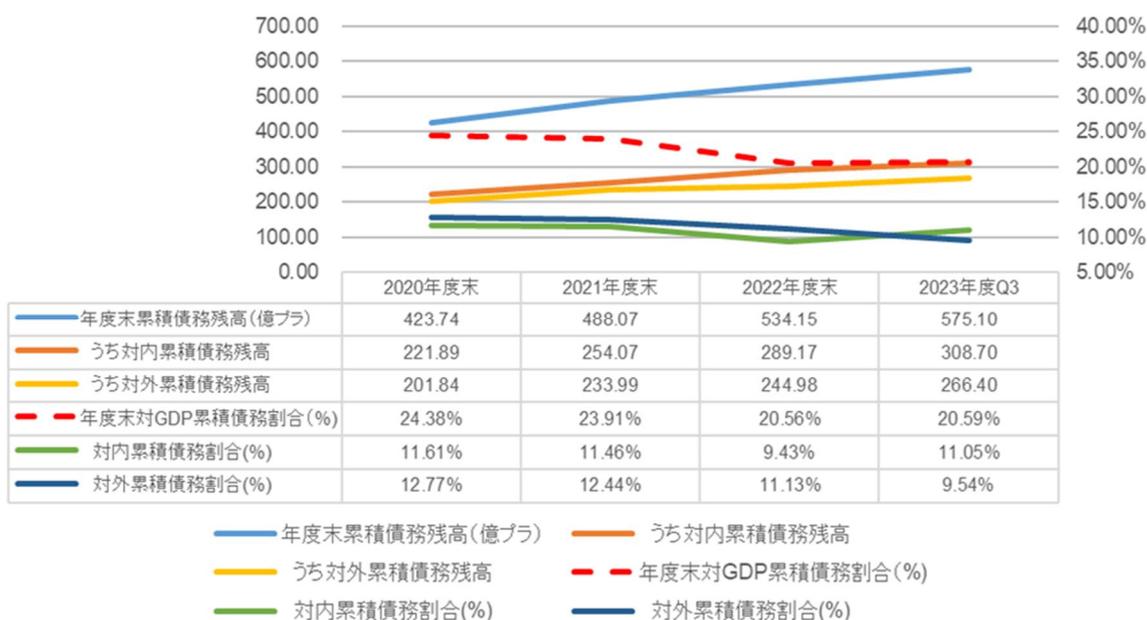
(分野別内訳：上位5分野(％))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	燃料 21.8	食料品等 16.2	ダイヤモンド 15.7	機械・電機 11.9	化学・皮革 11.6
輸出	ダイヤモンド 74.7	銅 13.6	塩・ソーダ灰 2.5	機械・電機 2.2	繊維 0.8

(国別内訳：上位5か国(％))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	南ア 70.2	ナミビア 10.9	カナダ 4.2	アルメニア 2.6	中国 2.6
輸出	UAE 32.9	ベルギー 32.8	豪州 7.0	南ア 6.5	中国 6.1

○ 公的債務残高(2023年度第3四半期現在)



【当館関連イベント】

○ 令和6年天皇誕生日祝賀レセプションの開催

22日、大森大使夫妻の主催による天皇誕生日祝賀レセプションが、ハボローネ市内のホテルにて開催された。クワペ外務大臣、モハエ元大統領を始め、約220名が参加した。大森大使は天皇陛下への祝意とともに、JICA海外協力隊による活動、日・ボツワナの小学生による児童画交流、草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じた教育施設等の建設支援、カズングラ橋建設事業及びワンストップ・ボーダーポスト(OSBP)の導入における技術協力等に触れ、両国の友好を更に深めていきたい旨述べた。

(了)